自 己 点 検 表

1．教員個別表

フリガナ　　オオクボ　タケシ 氏　　名　　大久保　剛	職　　名　　教授 人間学部　　健康栄養学科	取 得 学 位　　博士（水産科学） （大学名） 北海道大学　　（取得年月） 2010 年 09 月

2．教育・研究業績表

（1）過去 5 年間の教育業績

教育実践上の主な業績	年月（西暦）	概　　要
1．椙山女学園大学 食品栄養学科特別講座（大学院修士課程）	2023.08.28	大学院修士課程向けの集中講義を実施した。特に栄養素としてのコリンやω3 系脂肪酸結合型リン脂質に関する自分が実施した実験結果を交えながらコリン化合物の重要性を概説した。
2．戸板女子短期大学 基礎栄養学　後期講義	2023.09 ～2024.01	栄養士養成課程において基礎栄養学の講義を実施。栄養士実力認定の対応も行った。
3．小田原短期大学 食品学Ⅰ　前期講義	2024.04 ～2024.07	栄養士養成課程において食品学の講義を実施。1年生対象ゆえ基礎的な内容から説明を行った。
4．講義（食品加工学実習）	2015．04～	健康栄養学科 3 年生の受講科目。管理栄養士国家試験受験資格取得必修科目、フードスペシャリスト受験資格取得必修科目。 身近な加工食品の試作を通して、それらの原材料や使用食品添加物に関する知識、および製造工程や加工技術などを学習することを目的としている。現代に欠かせない加工食品について、加工食品の意義、食品素材の生産、特性、加工、貯蔵とそれらに関わる製造原理・製造技術を理解すること。また、管理栄養士が関わる分野の食品開発について実践のための基礎を養うことを到達目標としている。
5．講義（食品機能論）	2015．04～	健康栄養学科　4　年生の受講科目。食品衛生管理者及び食品衛生監視員任用資格取得必修科目、フードスペシャリスト受験資格取得必修科目。 食品の三次機能である、生体調節機構について基礎知識を習得する。また、社会に流通している特定保健用食品や栄養機能食品の制度について理解を深めることを目的としている。具体的には、食品に含まれている成分の生理機能について理解を深め、食事の重要性を認識する。食品に

		含まれている成分と生理機能を説明し、食と健康の関係を理解していくことを到達目標としている。
6. 講義（食品学実験Ⅱ）	2016. 04～	高校時代に文系コースに在籍していた学生も入学しているため、機器操作などに習熟していない学生が散見される。そのため、食品学実験Ⅰでは基本的な機器操作及び定性実験を中心に、食品学実験Ⅱでは、身近な食品中の栄養素の定量分析（たんぱく質、脂質、炭水化物を中心に定量）を行っている。経験値を増やすことと、基本操作の重要性を指導の課題とし、実験の経験値が低いため、実験が上手く行くことでモチベーションを高められるような構成に工夫をしている。
7. 講義（食品開発論）	2018. 10～	会社員の経験を活かして、実際に食品企業においてどのように製品が企画され、製造され、販売されていくかを概説した。参考書に頼らず、自らの経験を元に講義を組み立てている。
8. 講義（基礎栄養学）	2019. 10～ 2021. 03	管理栄養士養成課程であるため、3大エネルギー栄養素を中心に消化、吸収など臓器のメカニズムを分かりやすくするように努めた。また、代謝経路などは極力、図などを多用して視覚的に理解させることを行った。

（2）過去5年間の研究業績

Ⅰ　研究活動

著書・論文等の名称	単著 共著	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	共著者名（共著の場合）	編者名と当該執筆者数（編著の場合）	該当頁数
○学術論文（査読有） 1. 東日本大震災の被災地における睡眠状況について－継続的な睡眠状況の調査例（気仙沼市と陸前高田市）－	共著	2019	日本睡眠環境学会誌 2019　13/14(1)	神田あづさ 菅原詩緒里 大久保　剛		11-14
2. Relationships Between the Purposes of Taurine-Contained Nutritional Drink Intake and Lifestyle Habits: A Cross-Sectional Survey of Workers in Japan.	共著	2019	Advances in experimental medicine and biology 1155	Ohtsuki M, Nishimura A, Kato T, Wakasugi Y, Nagao-Nishiwaki		313 – 321

				R, Shibata T, Okada H, Ohkubo T, Ma N		
3．Distribution of 5-Methyltetrahydrofolate and Folic Acid Levels in Maternal and Cord Blood Serum: Longitudinal Evaluation of Japanese Pregnant Women.	共著	2020	Nutrients 12(6)	Kubo Y, Fukuoka H, Kawabata T, Shoji K, Mori C, Sakurai K, Nishikawa M, Ohkubo T, Oshida K, Yanagisawa N, Yamashiro Y.		1633.
4. 食物からのコリン摂取の重要性	単著	2020	ビタミン 94(11)	大久保 剛		539 – 544
5. Are lifestyle factors significantly associated with self-rated health among Japanese female healthcare students?	共著	2021	BMC Public Health 21(1)	Ohtsuki M., Wakasugi Y.,, Narukawa T.,, Uehara S.,, Ohkubo T.		505.
6. Comparison of the Physical Characteristics and Behavior in ABC Transporter A1, A7 or Apolipoprotein E Knockout Mice with Lipid Transport Dysfunction.	共著	2021	Biological & pharmaceutical bulletin 44(12)	Hiromi Tsushima, Kazuyo Yamada, Daisuke Miyazawa, Takeshi Ohkubo, Makoto Michikawa, Sumiko Abe-Dohmae		1851-1859
7. Are lifestyle factors significantly associated with self-rated health among Japanese female healthcare students?	共著	2021	BMC Public Health 21	Makoto Ohtsuki, Yusuke Wakasugi, Takuhiro		Article number 505

				Narukawa, Shunsuke Uehara, Takeshi Ohkubo		
8. Current Situation of Dietary Choline in Japan: The Nutritional Significance of Dietary Choline (SY(T2)1)	単著	2022	Journal of Nutritional Science and Vitaminology	Takeshi Ohkubo		68(Supplement) S34-S36
9．Association of Fatty Acid Desaturase 1 rs174547 Polymorphism with the Composition of Long-Chain Polyunsaturated Fatty Acids in Serum Glycerophospholipids during Pregnancy.	共著	2023	Nutrients	Terue Kawabata, Hideoki Fukuoka, Michiru Harada, Kumiko Shoji, Yoshinori Kubo, Chisato Mori, Kenichi Sakurai, Takeshi Ohkubo, Kyoichi Oshida, Yuichiro Yamashiro		15(3)
10.　Long-term intake of α-glycerophosphocholine (GPC) suppresses microglial inflammation and blood-brain barrier (BBB) disruption and promotes neurogenesis in senescence-accelerated mice prone 8 (SAMP8)	共著	2023	Biosci Biotechnol Biochem.	Mitsuki Umino, Mayumi Okuda, Takeshi Ohkubo, Tsutomu Fujii, Kiminori Matsubara		21;87(12):1537-1542.
○総説（査読なし）						
1.　シンポジウムⅠ「バイオファクターについて考える～生合成・代謝と機能性発現機構を再考する～」食事によるコリン化合物摂取とその機能性	単著	2019	ビタミン Vol.93, No.4	大久保　剛		62-63

2. 脂質摂取による睡眠への影響	単著	2019	オレオサイエンス 19(7)	大久保 剛		279-284
3. コリンの重要性について	単著	2019	日本食品安全協会会誌 14(4)	大久保 剛		285-292
4. コリン化合物の重要性と運動機能への影響	単著	2020	オレオサイエンス 20(4)	大久保 剛		157 – 162
5. イクラ含有脂質による睡眠効果	単著	2020	アクアネット（12 月号）	大久保 剛		30 – 34
6. コリン化合物摂取の重要性	単著	2021	アグリバイオ 5(2)	大久保 剛		78 – 81
○著書						
1. 【第Ⅴ編 脳】第 6 章大豆ホスファチジルセリン	共著	2020	運動機能・認知機能改善食品の開発 ISBN：978-4-7813-1507-2			49–74 115–123 139–154
2. 脂質摂取による睡眠への影響	単著	2020	水産油脂技術懇話会記録 一般財団法人 日本水産油脂協会			278–284
3. 食べ物と健康Ⅰ［食品学総論］	共著	2022	八千代出版 ISBN：978-4-8429-1825-9			35–42 101–105
4. 食べ物と健康Ⅱ［食品学各論］	共著	2022	八千代出版 ISBN：978-4-8429-1826-6			105–113 137–141

翻訳

翻訳書・翻訳論文等の名称	単訳 共訳	発行または発表の年月（西暦）	発行所、発表雑誌（巻・号数）等の名称	共訳者名（共訳の場合）	監修者名と当該訳者数（監修訳書の場合）	該当頁数
なし						

学術研究発表		
発表テーマ	発表年月(西暦)	発表場所
本人発表分のみ		
1．秤量法による食事からのコリン化合物摂取量の算出(1)	2019	第73回日本栄養・食糧学会大会(静岡)
2．食事によるコリン化合物摂取とその機能性(シンポジスト)	2019	第71回日本ビタミン学会大会(鳥取)
3．秤量法による食事からのコリン化合物摂取量の算出(2)	2020	第74回日本栄養・食糧学会大会(Web開催)
4．幼稚園および保育園において食育に及ぼす絵本の効果	2020	第8回日本食育学会総会・学術大会(Web開催)
5．食べ順による代謝への影響	2021	日本肥満学会・日本肥満症治療学会合同学術集会(web開催)
6．魚食普及における絵本の効果について	2021	第9回日本食育学会総会・学術大会講演
7．大学生における食事と睡眠の関係について	2021	第46回日本睡眠学会定期学術集会(福岡)
8．絵本による教育学的配慮に基づいた魚食促進ためのアプローチ	2022	第10回日本食育学会総会・学術大会講演(web開催)
9．γGTPと食事からのコリン摂取の関係	2022	第76回日本栄養・食糧学会大会(神戸)
10. 大学生における食事と睡眠の関係について(2)	2022	第47回日本睡眠学会定期学術集会(京都)
11. Relationship between γGTP and dietary choline intake	2022	22nd IUNS-ICN International Congress of Nutrition(Tokyo)
12.	2023	第77回日本栄養・食糧学会大会(札幌)
13.	2023	第11回日本食育学会総会・学術大会講演(恵庭)

Ⅱ　所属学会		
学会名	役職	入会年月(西暦)
1．日本栄養・食糧学会		
2．日本脂質栄養学会	評議員(2012～)	
3．日本脂質生化学会		
4．日本睡眠学会		
5．日本睡眠環境学会		
6．日本食品科学工学会		
7．日本未病システム学会		
8．日本肥満学会		
9．日本薬理学会		
10．日本神経精神学会		
11．日本栄養改善学会	評議員(2022～)	
12．日本DOHaD研究会		
13．日本微量元素学会		
14．日本油化学会		

15．日本顕微鏡学会		

Ⅲ　研究費の助成を受けた研究（過去５年間）

助成機関名	助成を受けた年度（西暦）	助成プログラム	研究テーマ	助成金額（円）
独立行政法人　科学技術振興機構	2011	研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）フィージビリスタディ（FS）・ステージ　シーズ顕在化タイプ	研究代表者 課題番号　AS2311427E 課題名　　コリン摂取と運動による健康増進プログラムの開発	7,180 千円
やずや食と健康研究所　研究助成	2015		食事調査法を活用したコリン摂取量の算出方法の確立に向けた検討	1,500 千円
乳の学術連合「牛乳乳製品健康科学」学術研究	2020		牛乳及び乳製品はコリン化合物摂取に役立つか？	1,340 千円
一般財団法人旗影会	2020		健診データを用いて検討した疾患とコリン摂取との関連	1,000 千円
公益財団法人 飯島藤十郎記念食品科学振興財団	2020		コリン化合物摂取による高齢者の認知機能改善効果	850 千円
科学研究費助成事業 基盤研究Ｂ	2021		コリン供給体としてのグリセロホスホコリン ー機能および吸収機構の解明から利用へー（研究分担者）	
科学研究費助成事業 基盤研究Ｃ	2022		妊娠可能年齢女性を対象とした葉酸投与による n-3 系脂肪酸及びコリン代謝への影響（研究分担者）	
一般財団法人旗影会	2024		食材としてのタマゴはコリン化合物摂取に役立つか?	2,000 千円

３. 特記事項

○　講師 公益財団法人 神経研究所 睡眠健康推進機構＋文部科学省共同事業 学校訪問型睡眠講座ねむりんねっと 講師　2020～